

第1045回例会2月24日(火)AM7:30~8:30

- 会場: オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会: 鷺津有一 井熊正浩
- 点鐘: 加藤恵司
- 週報: 松島弘明
- ロータリーソング: 「希望のエネルギー」
- ゲスト: 米山記念奨学生 オウ・ウテイさん

出席報告/スマイル報告

会員数 69 名 (内出席免除会員 4 名)
出席数 47 名 出席率 72.31%

スマイル提出者氏名掲載
加藤会長・鈴木幹事
鈴木 亮、大石莉帆

会長挨拶 会長 加藤恵司

おはようございます。

本日は王雨婷(オウ・ウテイ)さんの卓話となります。

鶴さん、武田さんをはじめ米山記念委員会の人たちは、土曜日に自分たちで中国語講座を開いたりして、王さんとの交流を積極的に図って頂きました。

また、私にはワンポイントではなくて盛りだくさんだったのでなかなかついていけませんでした。委員会報告でもワンポイント中国語講座を定期的に行って頂きありがとうございました。

王さんはこれからも米山校友会メンバーとしてロータリーと繋がっていくと思いますのでよろしくお願い致します。

多分地区大会などでは顔を合わせる事になると思います。

彼女が自分の夢を実現していく過程で、ロータリーが今まで、これからも手助けできればと思います。

3月8日には、曾布川さん、王さんと3人で「地区の米山奨学生 期間終了式」に出席してきます。

次年度は、受け入れの希望を出してはいたのですが、静岡市の奨学生が多かったとのことで残念ながら1年お休みとなるとの連絡を頂いております。

それでは本日もよろしくお願い致します。



幹事報告 幹事 鈴木 亮

- ① 浜松中ロータリークラブから江之島高校ポスターコンクールのクリアファイルを頂きましたので配布します。
- ② 例会終了後に第8回の役員理事会を開催します。
- ③ RLI 全履修者の華岡さんと松本由紀彦さんへ、修了バッチが届いています。加藤会長より授与して頂きます。



委員会報告

- ① 米山記念奨学生 オウ・ウテイさん「ワンポイント中国語講座」
- ② 親睦委員会「2月ハッピーバースデー」

【卓話：オウ・ウテイさん「米山記念奨学生修了報告と1年を振り返って」】

① 『1年間の歩み』

- ・クラブのカウンセラー、世話クラブカウンセラーのオリエンテーションと対面式に参加。
- ・米山梅吉記念館を訪問
- ・ポリオ根絶に向けた募金活動にも参加
- ・大阪でのシンポジウムに参加

② 『大学での研究生生活』

- ・研究テーマは、『公害問題に焦点を当てた子ども向けデジタル絵本に関する研究』

『光害』とは、夜間における人工光の不適切な使用によって生じる、環境問題・健康問題です。

人間に対しては、睡眠リズムの乱れなど健康への影響が指摘されています。また、動植物に対しても、生態や成長周期に影響を及ぼすことが知られています。

本研究目的は、二つあります。一つ目は、絵本を通して、子どもたちがこうした光害に対する認識を促進できるかを検討することです。二つ目は、紙の絵本とデジタル絵本、両方を比べてどちらの方がより効果的であるかを明らかにすることです。

私はまず、光害保護をテーマとした紙の絵本、159冊を調査しました。その中に、光害を直接扱った絵本はわずか6冊でした。このことから、光害をテーマとした絵本は、まだ少ないという現状が分かりました。

そして、近年は絵本の表現も多様化しており、デジタル絵本が増えています。ゲームやウェブサイトでは、物語と操作を組み合わせたインタラクティブな表現も多く見られます。だから、私の研究では、こうした事例を参考にしました。

公害をテーマに、子ども向けの紙の絵本と、デジタル絵本を3冊制作しました。『人間』『ウミガメ』、そして『イネ』という、三つの異なる生物の視点から、夜間の人工光の影響を物語形式で表現しています。

デジタル絵本では、アニメーションの要素を取り入れています。登場人物や光の動きをアニメーションで表現することができ、物語の状況や雰囲気がいよりの伝わりやすくなるように工夫しました。また、それぞれの絵本には、ミニゲームを入れています。これによって、子どもたちが物語に参加しながら、内容を体験的に理解できるようにしました。

子どもの目の配慮として、デジタル絵本には、画面の明るさを調整できる機能と、長時間の閲覧を控える注意表示も設けています。

読み聞かせ調査も行いました。

浜松市立東小学校、他クラブで2回の調査を行いました。どちらでも、紙の絵本とデジタル絵本、両方を実際に体験してもらい、理解のしやすさや、子どもたちの反応を比べました。

その結果、デジタル絵本の方が、分かりやすいと感じた子どもが一定数見られました。特に、動きや操作があることで、内容の理解を助ける可能性があると考えられます。

③ 『今後の展望』

今後は、業務に活かせるように、日本語能力をさらに向上させて、学友会の活動にも積極的に参加し、奨学生同士のつながりを大切にしながら、国や文化を超えた交流を継続していきたいと考えています。

さらに、これまでの趣味として続けてきた、のりものグラフィックのデザインに加えて、今後はのりものの手作りをチャレンジしていきたいです。実はこれまで、中国で実物をご一緒に制作したブランドの中には、残念ながら、廃業してしまったものもいくつかあります。たぶん、私のデザインのインパクトが強すぎたせいです。

